

令和7年度学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立羽咋高等学校

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
1 確かな学力と個別最適な学びの推進  ICT機器の活用や授業形態の工夫、観点別評価等の活用により、生徒が主語の授業への改善を図る。	① ・探究的な学びを取り入れた授業改善 ・生徒の主体的な活動を促す発問の工夫 ・学習到達度に応じた習熟度別指導の充実 ・ICTを活用した学習支援の充実	授業評価アンケートにおいて、「探究的な学びを通して興味関心が高まり、主体的に取り組もうと思える授業が行われている」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	生徒による授業評価の項目の「探究的な学びを通して興味関心が高まり、主体的に取り組もうと思える授業が行われている」という質問に対して、校内全体の割合は57%であった。  C	教員による授業改善の取り組みが生徒の主体的な学びを促すという考えに基づき、問いを中心に据えた授業設計や協働的な学びの場の設定、さらに教科横断的な授業などを積極的に促し、今後一層の授業改善を推進していきたい。
	② ・日々の学習を自らの将来と結び付けて考えさせることを通したキャリア意識の育成 ・添削等の個別指導と、補習や学習会等の全体指導を組織的・計画的に行う指導の実施 ・生徒一人ひとりの希望進路やニーズに応じられる指導体制の構築	ア：難関10大学・国公立医学科合格者3名以上 イ：金沢大学合格者15名以上 ウ：国公立大学合格者80名以上 上記ア～ウのうち達成した項目が A 3項目 B 2項目 C 1項目 D なし	現時点では判定できない。	模擬試験結果の推移を見ると、例年に比べ二極化の傾向が強い。難関大学や金沢大学を目指す層は昨年より厚みを増している一方、成績下位の生徒も例年より多く、特に中位層が薄い点特徴的である。今後も生徒一人ひとりの成績を丁寧分析し、担任面談等を通じて個に応じた指導を継続していきたい。
	③ ・学習支援アプリを活用した生徒自身による生活管理の推進 ・学習支援アプリを活用した生活実態の把握と個々の生徒へのフィードバック ・個別面談を通じた現状と課題の把握	1・2年生それぞれで、平日の家庭学習時間が1時間以上増加した生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	平日の家庭学習時間が1時間以上増加した生徒の割合 (学習時間調査第1回(4月)と第2回(6月)) 1年生 8.8% D 2年生 7.9% D	学習支援アプリを活用し、生活管理ができていない生徒は一部にとどまっている。1・2年生ともに平均学習時間は2時間に満たず、学習時間の絶対量が不足しているのが現状である。今後は、学習支援アプリのさらなる活用を促すとともに、生徒面談などを通じて学習習慣や生活習慣の見直しを図ることが急務である。特にスマートフォンの使用方法に関する指導は不可欠で、保護者の理解と協力を得ながら、粘り強く連携して取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	生徒の主体的な学びが、近年の難関大学合格者数の増加につながっている点を高く評価する。今後も生徒の希望する進路の実現に向けて、気軽に相談できる環境づくりを一層進めていただきたい。			
評価結果を踏まえた今後の改善方針	本校の進学実績は地域から大きな期待を寄せられていることから、国公立大学にとどまらず私立大学を含めた多様な進路選択を保障しつつ、今後も生徒一人ひとりに寄り添った指導を継続していく。			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
2 豊かな心の涵養  生徒が主体的に運営する生徒会活動や部活動等を創出するなど、さまざまな活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。	① ・生徒による行事運営の推進 ・部長会議の定期開催 ・各委員会委員長会議の活性化	生徒会活動や部活動が主体的に取り組める場となり、達成感や自尊感情が高められたと感じる生徒の割合が、 A 85%以上 B 70%以上 C 55%以上 D 55%未満	学校評価アンケート(7月)において、「生徒会活動や部活動をおとして、達成感や自尊感情が高まったと感じる」という項目に、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は42%であった。  D	今後は、羽高祭(文化祭)や新チームでの部活動など、1・2年生にとっても生徒が主体的に取り組む機会が一層増えていく。こうした場での成功体験や仲間との協働経験を積み重ねることにより、達成感や自己肯定感が一層高められるよう、引き続き支援していきたい。
	② ・生徒主体による校歌・応援歌練習の実施 ・校歌を大切に歌うことによる愛校心の醸成	学校評価アンケートにおいて、「校歌等の歌唱を通して、愛校心がより育まれた」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学校評価アンケート(7月)において、「校歌等の歌唱を通して、愛校心がより育まれた」という項目に、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は26%であった。  D	「おおむね当てはまる」を含めると70%以上であることから、校歌や応援歌の練習・歌唱は愛校心の育成につながっているといえる。今後も学校行事や儀式で校歌に触れる機会を設けるとともに、歌詞に込められた思いを理解することで帰属意識や愛校心の醸成を図っていきたい。
	③ ・スマートフォン、携帯電話等によるインターネットトラブル(いじめを含む)に関する継続的な全体指導 ・生徒会によるネットトラブル防止啓発活動の企画、実施 ・いじめアンケートの実施	学校評価アンケートにおいて、「スマートフォン等によるインターネットトラブルに対する安全・予防対策を、十分に実践している」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学校評価アンケート(7月)において、「スマートフォン等によるインターネットトラブルに対する安全・予防対策を、十分に実践している」という項目に、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は74%であった。  B	結果は高水準であるものの、生徒の安全を確保する観点から、ネットいじめやSNSの不同意投稿行為に対しては、今後も組織的な指導を継続していく必要がある。教員からの呼びかけはもちろん、生徒会執行部とも連携し、全生徒に働きかけていく活動を継続したい。また、オンラインゲームなどから犯罪に巻き込まれるケース等、ネットトラブル防止啓発活動も引き続き行ってきたい。
学校関係者評価委員会の評価	校歌の歌唱を通じて愛校心の醸成を図ろうとする取り組みは大変興味深い。生徒会活動や部活動などの協働的な体験を通じて、集団の中で主体的に行動できる人材を育成していただきたい。			
評価結果を踏まえた今後の改善方針	引き続き、校歌歌唱や生徒会活動、部活動といった多様な活動を通じて、生徒の愛校心・達成感・自尊感情を育むために、学校全体で一体となった取り組みを進めていきたい。			

令和7年度学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立羽咋高等学校

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
3 課題発見力・解決力の育成  DXハイスクール採択校・STEAM教育推進事業モデル校として、DX探究未来塾（総合的な探究の時間等）での活動を通して、地域社会の問題発見や改善に取り組む。	① ・プロジェクト型授業（PBL）の実施 ・教科横断的授業の実施 ・データサイエンス講座の実施 ・豊富な発表機会の設定	校外主催のコンテストや発表会に参加した件数が、 A 60件以上 B 40件以上 C 20件以上 D 20件未満	3年生が「自由すぎる研究@EXPO」に41件応募し、1件「いしる・いい汁・もっと知る」班が入賞した。  B	今年度の探究活動の成果を活かし、2年生では「中高生探究コンテスト2026」や「SDGs QUEST みらい甲子園」といったコンテストに応募予定である。加えて、1年生にはマサチューセッツ工科大学(MIT)主催の「MIT AI & Education Summit」への出場につながる「Japan Wagamama Awards 2026」への応募を積極的に促し、アプリ開発の成果を全国規模で発信する機会としたい。あわせて、生徒がアプリ開発やデジタル機器をより活用できる環境を整え、探究活動の一層の充実と発展につなげていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	「MIT AI & Education Summit」への出場など、探究活動の成果をより積極的に外部へ発信してもらいたい。ホームページなどのデジタル媒体だけでなく、地元の広報誌といった紙媒体との連携も検討してみてもどうか。			
評価結果を踏まえた今後の改善方策	今後、探究活動の成果を広く社会に発信することの重要性を踏まえ、デジタル媒体に加え、地域の広報誌をはじめとした紙媒体との連携についても検討を進めたい。			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
4 教職員の多忙化改善  学年・分掌業務の平準化や業務の精選により時間外勤務の削減を図る。	① ・教員の業務の適切な配分 ・業務の重複や無駄の削減 ・ICTを活用した教員間での情報共有や連携の強化	教員の時間外勤務時間調査において、月平均の時間外勤務時間が A 35時間以下 B 35～40時間 C 40～45時間 D 45時間超	4月平均 48.2時間(昨年度比-3.4時間) 5月平均 49.1時間(昨年度比+3.6時間) 6月平均 50.9時間(昨年度比+3.9時間) 7月平均 49.7時間(昨年度比+1.4時間) 4～7月平均 49.5時間  D	いずれの月も時間外勤務の平均が45時間を上回っており、負担の大きさがうかがえる。授業や部活動、校務分掌に加え、業務の内容は多岐にわたっており、個人の工夫や努力だけでは勤務時間の削減には限界がある。今後は、定時退校日の取り組みを一層強化するとともに、安心して休める職場づくりや、勤務にメリハリを持たせる働き方の推進、業務の見直し・再構築(スクラップアンドビルド)を意識しながら、全体として業務の効率化に取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	会議を入れない曜日を設けるなどして、教職員が自由に活用できる時間を確保できるよう、工夫をお願いしたい。			
評価結果を踏まえた今後の改善方策	「会議を入れない曜日の設定」は、教職員が自由裁量で活用できる時間を確保する観点から有意義な取り組みであると考え、今後はその方向で改善を図りたい。			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
5 防災への備えを高める  学校安全総合支援事業（災害安全）の推進校（拠点校）として、災害対応力の強化に取り組む。	① ・防災教育計画の立案 ・学校防災アドバイザー派遣事業の実施 ・生徒向け、教職員向けの研修の実施	防災教育事後アンケートにおいて、教員・生徒ともに「災害対応力が以前より高まった」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	10月に予定されている学校防災アドバイザー派遣事業実施後のアンケート結果で判定する。	安否確認訓練を2回(7/2、8/5)実施し、課題点を確認のうえ、改善を行っている。今後も訓練を継続することで、迅速かつ正確に安否情報を把握・報告できる仕組みを整備し、初動対応に役立てたい。
学校関係者評価委員会の評価	多様なアプリを通じて日々様々な配信が行われている中で、生徒がなかなか返信をしない傾向が明らかになったことは、生徒安否確認訓練を実施した成果の一つといえる。			
評価結果を踏まえた今後の改善方策	生徒の現状と課題を踏まえ、学校として指導体制を強化するとともに、生徒が習慣的に配信を確認できるよう働きかけを継続していきたい。			